

経済産業委員会

平成27年9月8日（火）

午前10時02分～午前10時27分

議会第3会議室

【出席委員】重田音彦委員長、久米勝博副委員長、野中宣明委員、山田誠一郎委員、
中野茂康委員、川原田裕明委員、千綿正明委員、中山重俊委員、
嘉村弘和委員

【欠席委員】なし

【委員外議員】なし

【執行部出席者】なし

【案 件】

・付託議案について（決算議案審査）

○重田委員長

おはようございます。ただいまから経済産業委員会を開催いたします。

先週の委員会で決定した案件の観光情報発信会館について、意見をまとめたお手元の資料をもとに、委員間討議を行いたいと思います。

まず、この要旨について事務局から読んでもらいますので、よろしく願いいたします。

◎意見要旨の読み上げ

○重田委員長

以上、読んでいただきました。

それで、本日は案件の名称、意見・提言を行う理由、背景、案件に対する意見・提言を確定していきたいと思いますが、まず、意見・提言を行う理由、背景、案件に対する意見・提言の内容を確定した後で、その内容に合った案件の名称を確定していく形としていきます。

◎抽出した意見・提言対象案件に関する委員間討議

○重田委員長

それではまず、観光情報発信会館について委員間討議を行います。

○川原田委員

その前に、笑われるとむかっとくるんですけども、情報発信についての一番下に紙面媒体にQRコードとあります。このQRコードを私にわかるようにどなたかわかる方が説明していただければ。

○千綿委員

QRコードというのは、スマホとかで読み取れる四角いやつにぐちゃぐちゃっとしているやつがあるじゃないですか。バーコードみたいなやつです。あれにスマホをかざすと、

ホームページに真っすぐ飛んだりするとですよ。そういうものがQRコードといいます。

○川原田委員

結構です。

○千綿委員

そもそも論になってしまうんですけど、意見としては出ていなかったと思うんですが、要はあそこに来られる方は、地元の人が結構多いという話だったじゃないですか。要は観光客が来て、そこで情報発信するというのが本来の姿だと思うんですよ。だから、やっぱりこの来ている方たちの調査をしないといけないのではないかなとちょっと思うわけですよ。というのが、ほとんどが前のもろどみ一番館のときからの流れで、地元の方で食材を買いに来ている方が多いという話を聞きましたよね。

本来、地元の方に情報発信をしてもなかなか難しいので、やっぱり例えば、福岡からの、東側からの玄関口ということで、そっちの観光客を誘導するためにあそこがないといけないと思うので、逆に言うと、そこをもう少し向こうに、観光情報発信会館としての位置づけをもうちょっと発信しないと、誰も会館に寄らないんじゃないですか。地元の者ばかり来て、地元の者に広報したって一緒だから、まずは、今どのくらいの人たちが、例えば地元外から来られているのかということ进行调查しないといけないのではないかなと、私個人的には思います。これは非常によくまとまっていると思いますが、ずっと思いよって、地元の方に情報発信しても一緒かなという気がするんで、ちょっと意見として上げます。

○中山委員

今思い出して申しわけないんですが、徐福上陸の地、あそこら辺がぴしゃっと説明されているのがなく、モニュメントというか像だけがあるんですね。ですのでそこら辺はやっぱり、もう少しPRしていくとかね、それを活用していくということが全然抜けているなと思いました。そこら辺はやっぱり考慮していく必要があるんじゃないかと、もっともっとPRして、そして草が生い茂っていたところをもうちょっときれいに、ここに書いてあるようにすることが大事ではないかなと思います。

○野中委員

よくまとめてあると思うんですけども、この案の(2)と(3)の中で、いわゆる地元の地場商品を中心とした商品構成という部分と、もう1つは、観光情報発信会館を起点としたイベントの企画を検討するという事で、要するに、例えば農産物や海産物という、南部の商品を特売するというような、そういったものをアピール、PRして、地域活性化に結びつけるようなイベントもやはり定期的で開催していくべきじゃないかなと思うんですよ。せっかくああい商品構成ができますので、だからそこら辺を(2)と(3)の中でどこかうまくまとめられたらいいのかなというふうに感じているんですけども、そういう地域活性化のためのイベントを定期的で開催していくということも含めてですね。

○山田委員

今、野中委員が言われたとおり、例えば、先日、ここでえつ祭りというのが開催されたんですね。そのときはやはり地元の者ばかりじゃなくて、よそからも相当来られています。そこで、来られたときに、ドロンパの中に入って、商品も魅力があるねということにつながっていかないといけないと思うんですよね。

ですから、例えば諸富だったら、メロンとかおいしくて、割と安価であるわけですね。季節ごとのイベントをするには、食材とか商材に関してはいろいろあると思います。南部地域には、例えばイチゴのシーズンとかですね。

だから、そういうイベントを頻繁に行って、地域外の人を呼び込む仕掛けを今からしていかなければいけないなというところを、今、野中委員が言われたことに具体的なそういう事例を入れて提言したらどうかなと思います。

○川原田委員

先ほど山田委員が言われたように、例えば、あそこは南部の拠点ですよ。隣の川副ではトマトの光樹とかサンロードですかね、あんないいやつがあるわけです。ただ、ほとんど市場に出回らないというのが現状だと思うんですよ。ですから、あそこに行けば、まあ光樹とまでは言わなくてもサンロードは手に入るよというぐらいの魅力がある施設にしていかないと、なかなか観光客、そしてまた、地元のお客さんは集まってこないと思います。

だから、川副あたりの農家の方ときちんと提携するような仕組みもつくっていかねばならないのかなというふうに思います。例えば、繰り返しになりますけど、山田委員が言われたように、イチゴならイチゴでもやっぱり佐賀の有名なイチゴをそこに集めるとか、そういうことでお客さんを引っ張っていくこと、当然野菜なんかもそうだと思いますけども、その辺をしっかりと農林水産部と協議をしながら、連携をとってやっていく。ここでしかこれは買えないというものを置くことが非常に大事じゃないかなというふうに思います。

○千綿委員

まさに川原田委員が言われたように、生のワラスボがあったじゃないですか。あれにはびっくりしたんですよ。せっかく「W・R・S・B」といってプロモーション動画までつくってしているのに、そこに置いてあるというPRは何もないわけですよ。

だから、逆に言うと、そこの連携とかをもうちょっとうまくやれば——俺は生のワラスボを初めて見たから感動したんですが。それと、生のシジミもあったでしょう。ああいうのも、多分そんなにほかにあるもんじゃないですもんね。だから、ああいうのをもうちょっとPRできないかなというのは物すごく感じますね。

だから、要はさっきちょっと言ったように、観光戦略がなっていないんですよ、あその位置づけが。だから、地元の方たちだけが来ているんじゃないで、例えば、東からの玄関口のところで、ここをこういう観光戦略の中で位置づけをして、さっき中山委員が言われたように徐福の上陸地でもあるわけだから、そこら辺をちゃんと何かうまく、もうちょっとうまくできんのかなという思いが物すごくやっぱりありますね。

だから、そこに観光客に寄ってもらって、佐賀市全体の観光情報がとれて、なおかつラムサールとか三重津海軍所跡も含めた南部の観光情報が見れて、そして市内にも行くような形の動線も含めて、もう少し観光戦略を練っていかないといけないのではないのかなというふうに、あそこの位置づけをきちっとしてやらないと、なかなか難しいのかなという気がしました。

○山田委員

私も、川原田委員が言われたとおりだと思います。その中で私はスタッフの意識改革というのを挙げていますけども、具体的に言えば、私はやはり、黙っていても、例えばトマトのサンロードとか、諸富のメロンとか、南部のイチゴとかは来ないわけですね。

だから、私はあそこの館長さんはバイヤーとしての仕事もしないといけないと思うわけですね。要は、情報を聞きつけて、そしてうちにこれを出してくれないですかというようなバイヤーとしての営業努力が物すごく必要だと思うんですね。そのためのスタッフの意識改革ということを私は言わせていただいたつもりなんです。

○中野委員

先ほどから、地域の特産物を生かしたイベントができないかということ言われておりますが、メロンとかイチゴとか、いろいろと南部地域にはあります。

私を感じたのは、杵島郡の福富の物産館ですね。あそこは、四、五年前からスイートコーンまつりをやっておられます。最初は、お客さんは少なかったです。毎年毎年おいしいスイートコーンを農家の方に委託をしてつくっております。ことしは物すごくお客さんが多かったんで、特産物を生かした特売日というか、農家の人も入れて、その品物に特化した「きょうはメロンの祭りをやりますよ」というようにいろんな作物別に何回か企画するのもいいんじゃないかと思えます。

それと、視察で現地に行きましたが、マイクロバスで駐車場に入ったわけですね。情報発信会館ということで、いろんなチラシがありました。徐福さんや三重津海軍所跡とか。それを今回、自分がふれあいサロンの老人クラブで話をする材料として持っていったんですけど、ちょっと数が不足しましたので、またきのう取りに行ったんですよ。そこで、自分が運転する車で行ったときに感じたのは、マイクロバスのときは入る不自由さはわかりませんが、交差点が物すごく入りにくいんですよ。地元の方は、ちょこちょこ行くもんですからさっと入れると思いますけど。千綿委員が言われましたとおり、外部の方を取り込むには、あそこの入り口の改良がいま一度必要かなと感じております。

○重田委員長

交通アクセスね。

まあいろいろ意見が出ました。

○久米副委員長

いろいろと出ていますけれども、指定管理のあり方の問題だと思うわけですよ。情報発

信会館だけを指定管理しているものか、周辺まで含めているのか。要するに徐福像や昇開橋、そこら辺の周辺までを含めたところで指定管理をしないと、情報発信会館の館長さんが「私はここだけもんね」という感覚でされていたらいつまでたってもよくはならないと思うわけですよ。やはり周辺まで、せつかく徐福像もある、昇開橋なんかは世界遺産になさんばかもわからんし。そういったところを含めた情報発信会館にしていかなければいけないと思います。

○重田委員長

管理も一体的にということですね。

○川原田委員

私もまさに今、久米副委員長が言われたとおりでと思うんですね。あそこ一帯をきちっとやっていかないと、本当の情報発信会館にはまずなり得ないと思います。せつかく世界遺産の三重津海軍所跡やラムサール条約湿地の東よか干潟がありますけども、あそこからきちっと送るようなシステムをつくっていかないと、せつかく佐賀市が情報発信会館ということで打ち出しているわけですから、少しスタッフを増員してでも、お金をかけてでも、私はやっていかなければならないと。この辺は強く経済部のほうに言いたいなというふうに思います。

○重田委員長

大体、皆さんからの意見は出たみたいですよ。

それでは、順番にまず追っていきたいと思います。

意見・提言を行う理由・背景については、この資料は皆さん持ってありますね。一応私から読み上げたいと思います。

◎理由・背景案について読み上げ

○重田委員長

理由・背景については、これで確定したいと思います。

そして、別紙1、附帯決議案としてお配りしておりますけど、結構これ以外に追加の分が出ました。どういたしましょうか。

○川原田委員

出たやつは全部記録しているでしょうもん。

それをまとめるのはお任せしていいと思うばってんね。

○重田委員長

そしたら、一回読んでもらいましょうかね。事務局から読んでいただきます。

◎附帯決議案の読み上げ

○重田委員長

大体この前の時点ではこういうにまとめておりますけど、ただ、きょういい意見も結構でましたので、それを入れて——一任されると言われてもあれけん、できた時点で、本会

議中になると思いますけど、皆さん寄っていただいて確認していいでしょうか。

○山田委員

私は最後に久米副委員長がおっしゃたとおりだと思うんですね。やはり指定管理者を指定するとき——今後、指定管理のあり方を見直さないかんと思うわけですね。ドロンパが開設して指定管理をお願いしたときと、今は状況が変わっているわけですね。三重津海軍所跡の世界遺産登録とラムサール条約湿地登録ですね。そのことを踏まえて、指定管理者としての見直しも必要だということを一文入れていたほうがいいんじゃないかなと思います。

○千綿委員

どうせ入れるのであれば、今の指定管理者の要件を見ないといけないと思います。だから、その資料をもらって、まずその中に例えば指定管理の方法として、先ほど久米副委員長が言ったような形を入れる。現状をまず確認してから入れんと、もう入れてあるかもしれないし。だから、そこら辺は一度確認した方がいいのかなと思います。

○重田委員長

とにかくうちの委員会として、一体的にしないと意味がないというようなことですね。

○中野委員

済みません。ちょっとお願いですけど、(1)観光情報発信会館を強化するということで、南部地域、東与賀まで足を延ばすような提言をされておりますが、今、久保田町でも冬の牡蠣小屋と、与羅ん館という日本一の佐賀牛のレストランもありますので、そういうところまでの誘導をしていただけたらありがたいなと思います。

○重田委員長

はい、わかりました。文書としてどうなるかはわかりませんが、とにかく南部を漏れなく誘導するというので、ある程度、はい。

ほかに。

(「なし」と呼ぶ者あり)

よかですね。

一応まとまった時点で皆さんにまた連絡いたしますので、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

そしたら、以上で本日の経済産業委員会を終了いたします。どうもお疲れさまでした。